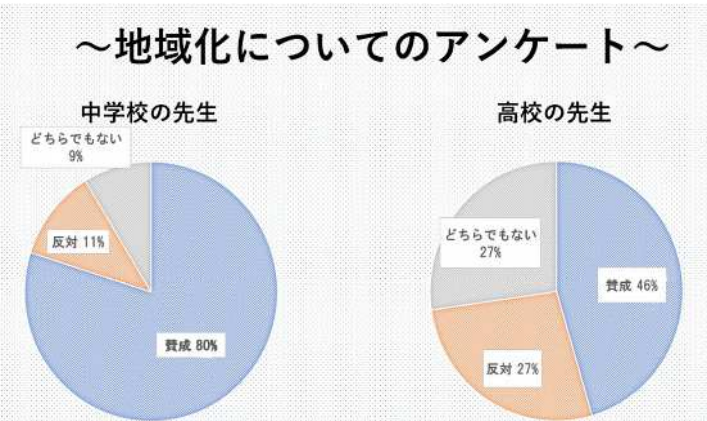


参加した コース	ふじのくに地域探究コース (多文化共生コース・多様性コース)			訪問国	オーストラリア
学校名	袋井高校	氏名	稲山瑠衣菜	学年	2

私は、オーストラリアのパースに4週間バスケ留学をしてきました。

きっかけは3つあります。1つ目は英会話教室です。通い始めた頃は英語が好きでも留学に興味はありませんでした。しかし、姉が留学したことや、たくさんの生徒さんの留学経験談を聞いたことで私も留学をしてみたいと思うようになりました。2つ目は中学校の部活動での経験です。中学校のとき同じバスケ部にブラジル人の子が入部してきました。一緒にプレーをしていく中で外国と日本の文化の違いを感じ、実際に留学して学びたいと思いました。3つ目は、県内ニュースで中学校の部活動が地域化になるということを聞いたことです。地域化にしてしまうと自分で調べたり、応募したりしなければならないため、外国人がスポーツと関わりづらくなってしまうのではないかと思います。

そこで、まず、中学校の先生と高校の先生に部活動の地域化に対する意見を聞きました。中学校の先生は賛成が8割に対して高校の先生は約5割でした。中学校の先生は教員の働き方改革が優先、専門の人に指導してもらった方が良いという賛成意見が多く、高校の先生は、地域化にしてしまうと指導者不足になってしまう可能性があるなどの反対意見がありました。



現地では週5回、練習と試合に参加しました。4箇所のクラブチームに参加したのですが、



多国籍の子が多く参加していて、なかなか体験することのできない環境でプレーをすることができて楽しかったです。さらに、普段であれば同年代の男子と本気で試合をすることはないのでとても良い経験になりました。パースの人はとても優しい人が多いことを直接感じることができました。例えば、練習内容がわからず周りをずっと見ていたらゆっくり話してくれたり、コーチが実際にプレーをして見せてくれたりしました。このことか

ら、地域化の課題も見えてきました。外国人が参加しやすくなる半面、多文化社会を理解ができる人、できれば英語を話せる人でないとなかなか指導をする上で難しいと感じました。静岡県は在留外国人数が全国で8位ですが、今後はさらに日本に来る外国人数は増加すると思います。そのため、日本人が外国人に対してもっと興味を持ったり、コミュニケーションが取れるように英語を話したりすることが求められるのではないかと思います。

私がこの留学で驚いたことは、同じ語学学校の同じクラスにトビタテ生が2人もいたことで



す。事前研修は3人とも違う日ので初めは知らなかったのですが、インスタグラムを交換した際にトビタテ生であることを知り、仲良くなることができました。世界は意外と狭いと感じました。

留学に行く前は、消極的な性格で、自分で考えて行動することができませんでした。初回の練習の時、緊張と初めての環境とでなかなか前に出ることができず、エージェントさんの後ろにくっついていました。「待っていても誰も来てくれないよ。るいなならできるよ」という彼の一言で変わることができました。その通り自分からいかないといけないという状況だと理解して「私ならできる」と強い気持ちを持ち、「Hello!」と自分から声をかけたら周囲から話しかけてくれるようになったし、最後の練習のときに「Can we exchange Instagrams?」と話しかけると嬉しそうに「Sure!!」と答えてくれました。その時、声をかけてよかったと心の底から思いました。



私はこの留学を通して、初めは中学校の地域化に反対でしたが、考えが変わりました。例えば、オーストラリアのように、選抜制の学校の課外活動と外国人も含め誰でも入れる地域のクラブスポーツの選択肢があれば、本気で頑張りたい人も友達と楽しみながらやりたい人もスポーツに関わることができるのではないかと思います。



達と楽しみながらやりたい人もスポーツに関わることができるのではないかと思います。